次期学習指導要領 教科別まとめ　中学校 No.03

審議まとめ（2026年10月5日）を**中学校の先生向け**にまとめ直しました

数学

次期学習指導要領で、どう変わる？

小中高を6つの分野でつなぎ、証明と批判的思考を育てる





10秒でいうと　数学の全体像や社会とのつながりを学ぶ「数学ガイダンス（仮称）」を新設する案。証明も充実

やさしく言うと

中学校の数学は、「数学ガイダンス」を新しく設ける方向です。数学の全体の見取り図や、数学と社会・職業のつながりを学ぶ内容です。論理的・批判的に考える力（クリティカル・シンキング）のため、証明などの学習も充実する方向です。内容は小学校から高校の数学Ⅰまで、共通の6つの分野で整理する案です。学年をこえた学び直しもしやすくする方向です。

中学校はいつから？

全面実施	2031年度（令和13年度）から（見込み）
移行期間	2028～2030年度
告示	2026年度末の予定
教科書	2031年度から新しい教科書（2029年度に検定）

この冊子の中身

1 数学のポイント　4つ
2 主な変更点　6項目
3 現行と次期の比較（新旧対照）　5項目
4 授業時数
5 生成AI・ICTとの付き合い方　4項目
6 今からできる準備チェックリスト　7項目
7 次期を先取りする授業アイデア　1本
8 指導案（試案）　1本
9 現行の学習指導要領・解説（中学校）

無料 原田英語.com 次期学習指導要領ナビ
研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。クレジットは残してください。
審議まとめ（2026年10月5日）準拠・出典ページつき。告示前の方向性で、今後変わることがあります。2026年11月4日 版
サイトで見る

算数・数学の3行要約（全校種）

1. 小・中・高で教科の目標と「見方・考え方」の言葉をそろえ、学習内容を共通の6つの「分野」で整理する方向です。批判的に考える力や、証明などの論理的な学習を重視するとしています。
2. 中学校と高校に、数学の全体像や社会・仕事とのつながりを学ぶ「数学ガイダンス」を新しく設ける方向。高校では必履修の数学Ⅰに「社会を読み解く数学」を加え、数学A・B・Cを1つの新科目にまとめる案です。
3. 割合・比・分数のつまずき対策、教科書内容の精選、学年をこえた学び直しなど、だれもが「わかる」「できる」と感じられるための工夫を進めるとしています。

※数学A・B・Cを統合した新選択科目の名称は「数理活用（仮称）」などの案で検討中。「数学ガイダンス」は仮称。いずれも2026年10月の審議まとめ段階の案で、今後変わり得る。

1 数学のポイント

4つ

1 「数学ガイダンス」を新設

数学の学習内容のつながりや、社会・職業との関係が十分理解されていないとされています。そこで中学校と高校に「数学ガイダンス」を新しく設ける方向です。中学校では、小学校とのつながりや、数学が日常生活や社会を支えることなどを扱うとされています。 P167 P171

授業では、たとえば 入学後の「数学開き」で、小学校で学んだことが中学校の3年間でどう広がるかを地図のように示す。そんな授業が考えられます。

2 証明（論証）の学習を充実

推論や証明など、論理的に考えて説明する学習を苦手とする生徒が多い状況が続いているとされています。そこで、基本的な概念の理解や計算技能の習得を図りつつ、推論や証明に関わる学習を充実する方向です。「論証」は6つの分野の一つに位置付けられる案です。 P165 P167 P171

授業では、たとえば 証明を書く前に、結論から逆にたどって「何が言えればよいか」を口頭で説明し合う。そんな段階を入れる授業が一例です。

3 読んで理解し、説明する学習

全国調査では、家庭の経済的な背景の影響が見られたとされています。一方、「文字式や証明を読んで理解する」「説明活動をする」の両方に取り組んだ生徒は正答率が高い結果も示されました。こうした学習の大切さを解説で示すべきとしています。 P176 P177

授業では、たとえば 教科書の証明を読み、根拠になっている性質に線を引いて、隣の人に説明する。そんな短い活動を毎時間入れる工夫が考えられます。

4 帰納と演繹をバランスよく

具体的な事象から問題を見つけさせる帰納的な指導があります。まず教師が原理を教える演繹的な指導もあります。実態に応じて使い分けることが必要とされています。「間違っても良い」と言える心理的安全性を確保することも有効とされています。 P174

授業では、たとえば 新しい性質は教師が要点を示し、その後の問題では「なぜそう言えるか」を生徒が探る。そんな使い分けが考えられます。

2 主な変更点

6項目

1. 中 高 中学校・高校に「数学ガイダンス」を新設する方向

学習内容どうしのつながりや、数学と社会・仕事の関係が見えにくいという課題から、数学全体の「見取り図」と社会・職業とのつながりを学ぶ「数学ガイダンス」を中学校と高校（数学Ⅰの中）に新しく設ける方向です。中学校では小学校からの接続や数学が日常生活・社会を支えること、高校では中学校からの接続や数学が職業生活を支えることなどを扱うとしています。総授業時数を増やさないことが前提で、入学時の「数学開き」の実践も参考にし、体験的な活動で楽しさや好奇心を引き出す内容を検討します。
P167 P171

2. 証明・論理的な説明の学習を小中高で強化（「論証」分野）

変化が激しい社会では、筋道立てて批判的に考える力（クリティカル・シンキング）が欠かせないとして、中学・高校で数学的推論や証明に関する学習を充実する方向です。小学校でも、中・高の証明につながる「論理的に説明する活動」を各単元で充実するとしています。資料編では、これまで「数と式」「図形」に散らばっていた内容を「論証」という1つの分野として独立させると説明されています。
P164 P165 P167 P171

3. 目標・見方・考え方を小中高で統一し、学習内容を6つの「分野」で整理

小・中・高で教科の目標の言葉をそろえ、「見方・考え方」も統一する方向です。新しい見方・考え方は「事象や言説を数理の視点から捉え、論理的、統合的・発展的、批判的に考察すること」で、ニュースや意見などの「言説」と「批判的」（建設的な意味で）が加わる案です。小学校の算数から高校の数学Ⅰまでの内容を「数と式」「図形」「変化と関係」「データと確からしさ」「論証」「社会を読み解く数学」の6分野で整理し、各分野を1～2の「区分」に分けて「統合的な理解・総合的な発揮」を示すとしています。教科名の統一は引き続き検討ですが、算数の英語表記は「Arithmetic」から「Mathematics」に改める案です。 P166 P167 P168 P169 P170

4. 学年の区切りをこえた柔軟な指導と学び直し（調整授業時数の活用例も）

学年区分は示しつつ、学校の判断で指導時期を前倒し・後ろ倒しできるようにし、まとまった時間をつくって定着に課題のある単元の学び直しや、興味を引き出す探究的な学習に使えるようにする方向です。新しい調整授業時数の「裁量的な時間」では、下の学年の未習得事項を学び直すプログラムや、算数の単元構想の研究・研修などが例に挙がっています。ただし系統性が強い教科なので、安易な時数の調整で定着に影響が出ないよう注意が必要とされています。高校では科目の組み替えの仕組みで、いわゆる「理転」の壁を下げる効果も期待されています。
P174 P175

5. 定着を支える指導の工夫（認知心理学の知見・帰納と演繹のバランス・ICT）

基礎的な知識・技能を確実に身につけるため、分散学習・検索練習など認知心理学や学習科学の知見をふまえた指導や、学習前の「レディネス」（既習事項の習得状況）の確認が有効とされています。具体的な事象から考えさせる帰納的な指導と、先に教師が原理を教える演繹的な指導を、子どもの実態に合わせてバランスよく使い分けるとしています。「間違ってもよい」という心理的安全性も重視されます。1人1台端末やクラウドを前提とし、AIドリルは質や教師の指導などの条件のもとで計画的に使えば効果的とされています。 P164 P174 P177

6. 内容の精選と、教科書で「必ず扱う内容」と「必要に応じて扱う内容」の区別

「統合的な理解・総合的な発揮」に欠かせない内容を中心に並べ、欠かせない内容でないものは精選するとしています。教科書を全部網羅して教える傾向があるとの指摘から、教科書の各内容が必ず扱うべきものか、必要に応じて扱うものかの区別（グラデーション）が分かるよう、教師用指導書での工夫を教科書会社に求めることも検討されています。資料編では、演習問題を基礎・習熟・発展に分ける、コラムなどには時数を配当しないといった例が挙がっています。 P173

3 現行と次期の比較（新旧対照）

5項目

黄色のマーカー＝次期で新しく入る・強く打ち出される言葉　~~取り消し線~~＝現行から消える・言い方が変わる言葉

項目	現行	次期（審議まとめの方向）
学習内容の区分の仕方	小学校算数・中学校数学は「領域」、高校数学は「項目」という名前で区分。	小学校算数～高校数学Ⅰまでを、共通の**6つの「分野」**（数と式、図形、変化と関係、データと確からしさ、**論証**、**社会を読み解く数学**）で整理し、さらに「区分」に分ける方向。P167 P170
見方・考え方	事象を「数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え」、「論理的、統合的・発展的に考える」こと。	「事象や**言説**を**数理の視点**から捉え、論理的、統合的・発展的、**批判的**に考察すること」。小・中・高で文言を統一する案。P169
中学・高校の「数学ガイダンス」		数学全体の**見取り図**と、数学と**社会・職業との関係**を学ぶ内容を中学校と高校（数学Ⅰ）に**新設**する方向。総授業時数は増やさないことが前提。P167 P171
数学的活動の位置付け	これまでの学習指導要領で、算数科・数学科の学習過程として位置付けられてきた。	「数学的活動」を個々の学習内容として規定するのではなく、**教科全体を通じて**充実に取り組む旨を規定すべきとされた。P178
評価規準づくり	各学校が、内容のまとまりごとの評価規準、単元の目標、単元の評価規準を作成。	「内容のまとまりごとの評価規準例」は**国が示し**、学校での**作成は不要**にする方向。算数・数学の「内容のまとまり」は**「区分」ごと・学年ごと**の「内容」とする方向。単元の目標がそのまま単元の評価規準になる考え方。P179

4 授業時数

高校：数学Ⅰは現行3単位→最大8新単位程度、数学Ⅱは現行4単位→6新単位（3単位）、数学Ⅲは6新単位、新選択科目は2～12新単位（現行は数学A・B・C各2単位）。1新単位は17コマ。「社会を読み解く数学」相当を新科目で学ぶ場合は数学Ⅰから減単可能（P81、P82）。小・中学校の算数・数学の具体的な時数は算数・数学の節には書かれていない（総論では、35コマを超える教科等から一律3-4%程度を「広く薄く」減じる考え方を示し、実数は今後示すとしている：P79）。

5 生成AI・ICTとの付き合い方

4項目

1. 生成AIの時代にこそ数学を学ぶ意味がある

数学の問題解決に生成AIが使われる場面が増え、数学を学ぶ意義を問い直す声もあります。しかし、生成AIで処理した結果が妥当かを確かめるにも、生成AIの仕組みを理解するにも、数学の素養は欠かせません。生成AIに振り回されない批判的思考力のためにも数学的な思考力が必要とされています。P166

2. クリティカル・シンキングの強化

AI技術やデータサイエンスが急速に進む変化の激しい社会では、論理的・批判的に考え判断する力（クリティカル・シンキング）が一層重要なので、数学的推論や証明などの学習を中・高で充実させます。P167 P171

3. AIドリルの使い方の条件

AIドリルは、①教材として一定の質がある、②教師の適切な指導助言がある、③子供が自分で学びを調整しながら使える、の3つが前提です。そのうえで計画的に使えば、知識を効率よく身に付けられるとされています。家庭学習が難しい子供にAIドリルを配る自治体の例もあります。P176 P177

4. ICT活用の例と、AIの扱いの機動的な見直し

効果的なICT活用例として、AIによる自動採点やデジタル教材・AIドリルの活用などが挙がり、国が改訂を待たず広く知らせることが重要とされています。学習科学をふまえたAI学習アプリなど新しい動きにも注目し、算数・数学でのAIの扱いは技術の発展に合わせて機動的に見直すとされています。P177

6 今からできる準備チェックリスト

7項目

- [ ] 今すぐ 単元に入る前に、その単元に必要な既習事項（レディネス）を5分ほどの小テストで確かめ、つまずきのある子供への手立てを用意してから始めます。 P164 P165 P174
- [ ] 今すぐ 授業の冒頭や宿題に、前の単元の問題を少し混ぜて思い出させる時間（分散学習・検索練習）を入れ、全員にまったく同じ問題だけを出すやり方を見直します。 P164 P174
- [ ] 今すぐ 割合や速さで「みはじ」「くもわ」を使っている場合は、数直線や図で意味を説明させる時間を必ず入れ、暗記だけで終わらせないようにします。 P164 P171
- [ ] 告示まで 小中の先生で、6つの「分野」（数と式、図形、変化と関係、データと確からしさ、論証、社会を読み解く数学）をもとに単元の系統表を作り、学校段階のつながりを確かめます。 P167 P170 P175
- [ ] 告示まで 中学校・高校の入学時や学年初めの「数学開き」を、数学の全体像（見取り図）や、数学が日常生活・社会・職業を支えることを体験的に学ぶ時間として作り直し、「数学ガイダンス」を先取りします。 P167 P171
- [ ] 告示まで 現行学習指導要領に示された内容を確実に扱うことを前提に、教科書内の練習・補充・発展的な内容の扱い方や時数配分を教科会で点検します。次期課程での「必ず扱う内容／必要に応じて扱う内容」の区分は、告示・解説や教師用指導書が示された後に確認します。 P173
- [ ] 全面実施まで AIドリルを使う場合は、①教材として一定の質がある ②教師が適切に指導助言する ③子供が自分で学びを調整しながら使う、の3つを満たす使い方を校内で決め、計画的に使います。 P177

7 次期を先取りする授業アイデア

1本

中2　1単位時間（50分）

その“法則”本当？ 反例さがしから証明へ

ネットで見かけた“数の法則”を確かめ、反例を見つけ、正しい形に直して文字で証明します。

手順・ワークシート

ねらい

整数の性質についての主張を具体例で確かめ、成り立たない場合は反例を示し、成り立つ形に直したうえで、文字式を用いて筋道立てて説明できる。

流れ

- **5分**　「ネットで見かけた“数の法則”」として2枚のカードを見せ、「どちらも本当？」と予想させます。
- **8分**　一人で、いくつかの具体例で確かめます。3つの和は1＋2＋3＝6、4＋5＋6＝15など。4つの和は1＋2＋3＋4＝10で4の倍数にならないことに気付いた生徒の考えを取り上げます。
- **5分**　全体で、「1つでも成り立たない例（反例）があれば、いつでも成り立つとは言えない」ことを確かめます。一方で「例をたくさん確かめても、すべての整数で成り立つとは言えない」ことも問いかけます。
- **12分**　「連続する3つの整数の和は3の倍数」を文字式で説明します。n、n＋1、n＋2と置くと和は3n＋3＝3(n＋1)となり、n＋1は整数なので3の倍数と言えることを書きます。ペアで、説明の手順カードに沿って読み合います。
- **15分**　「連続する4つの整数の和」について、正しく言えることを班で考えます。n＋(n＋1)＋(n＋2)＋(n＋3)＝4n＋6＝2(2n＋3)＝4(n＋1)＋2 から、「偶数である」「4の倍数より2大きい」などを見つけ、そのうち1つを文字式で説明します。
- **5分**　振り返りとして、「主張が本当かを確かめるときの手順」を、今日の言葉（具体例・反例・文字での説明）を使って書きます。

評価

【知識・技能】連続する整数を文字で表し、式を変形して性質を説明しているかを見取ります。【思考・判断・表現】具体例で確かめることと文字で説明することのちがいを理解し、反例を示したり主張を直したりして筋道立てて説明しているかを、確かめメモと振り返りで見ます。

8 指導案（試案）

1本

中学校第3学年　数学　全6時間（本時は第4時）

標本調査 ～その「調査によると」、信じていい？～

中教審の審議まとめ（2026年10月5日）で示された、数学の新しい見方・考え方（案）「事象や言説を数理の視点から捉え、論理的、統合的・発展的、批判的に考察すること」と、「データと確からしさ」の分野で、標本調査は全体の傾向を推測できる一方で予測や判断に誤りが生じる可能性があることを理解し、判断の妥当性…

指導案の全文

本時のねらい

「調査によると」という主張について、母集団、標本の選び方、標本の大きさに着目して批判的に考察し、主張が妥当かどうかを判断するとともに、よりよい調査の方法を表現することができる。

本時の流れ

5分　導入　前時の共有シートの箱ひげ図を見て、標本の大きさが大きいほど標本平均のばらつきが小さかったことを振り返る。

5分　導入　主張カードA～D（教師が作った架空のもの）を読み、本時の課題を確かめる。A「本校の生徒は読書好き！9割が『本が好き』と回答」（昼休みに図書室にいた生徒と図書委員の計30人に聞いた）。B「市内の中学生の平均睡眠時間は8時間」（市内のある中学校の1学級から選んだ5人に聞いた）。C「利用者の95%が満足！」（店に置いたアンケート用紙に、自分から答えた20人の結果）。D「全校生徒480人から、生徒番号を表計算ソフトの乱数で選んだ60人に聞いた家庭学習の平均時間は約55分。全校の平均もおよそこのくらいと考えられる」。

12分　展開　個人で考えた後、グループで各主張を表に整理する（母集団は何か／標本はどう選ばれたか／標本の大きさ／主張は言い過ぎか）。

12分　展開　全体で共有し、偏りの原因を「選び方の偏り」「標本の大きさ」「自分から答えた人だけが集まる偏り」などに整理する。Dについて、適切な選び方でも推定には誤差があることを前時の結果から確かめ、「およそ」という言い方の意味を考える。

10分　展開　主張Aの調査をよりよくする計画を書く（母集団、無作為に選ぶ方法、標本の大きさ、結果の伝え方）。

6分　まとめ　「『調査によると』を見たら確かめること」を学級でまとめ、最初の直感と比べて振り返りを書く。次時は学校図書館の本で実際に標本調査をすることを知る。

PDF版：shidoan-chu3-sugaku-hyohon-gensetsu.pdf（ダウンロードコーナー）

9 現行の学習指導要領・解説（中学校）

PDF　**中学校学習指導要領（平成29年告示）（本文）**
https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt_kyoiku02-100002604_02.pdf

PDF　**中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 数学編**
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_004.pdf

文部科学省の公式PDFです（クリックで開けます）。

ご利用について

- **研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。**
  （校内研修・教育委員会の研修・教員養成の授業・学年会・PTAなど）
- クレジット「原田英語.com 次期学習指導要領ナビ」
  （https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/）はそのまま残してください。
  各ページの下に入っています。
- 中身は中央教育審議会 教育課程部会「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」（2026年10月5日）ほか文部科学省の資料をもとに、原田英語.comが要約したものです。**告示前の方向性**で、答申・告示で変わることがあります。（仮称）の名前も今後変わる可能性があります。
- 文中の P〇 は審議まとめ本体（PDF）のページ、**資料編（1）～（3）P〇** は第3部 資料編（PDF）のページです（PDFのページ番号。印刷されたページ番号とは1つずれることがあります）。PDFで見ているときはクリックで原文が開きます。
- 授業アイデア・指導案は、審議まとめの方向性をふまえた原田英語.comのオリジナルの試案です。
- 最新の情報・ほかのPDFはサイトで：
  https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/（2026年11月4日 版）

サイトで最新版を見る